



GENECODE

ジーンコード ver 3

ユーザマニュアル

CSS 構文リファレンス

第 1 版

最終更新日 2018/12/20

目次

第 1 章	CSS の拡張構文 (@genecode ルール)	3
1-1	書式	3
1-2	条件式	4
(1)	完全一致	4
(2)	OR	4
(3)	否定	4
1-3	サーバーサイドの処理	5

第1章 CSS の拡張構文 (@genecode ルール)

GeneCode では CSS の構文を拡張しており、CSS 内に @genecode ルールを記述することができます。@genecode ルールはサーバーサイドで解釈され、アクセスしたクライアントのグループによって出力される CSS を変化させることができます。

1-1 書式

@genecode ルールは宣言ブロック内もしくは宣言ブロック外で指定できます。@genecode の直後には対象となるグループの条件式を記述します。

例 1. @genecode を宣言ブロック内で使用する

```
セクタ {
  プロパティ名: 値;
  @genecode 条件式 {
    プロパティ名: 値;
  };
}
```

例 2. @genecode を宣言ブロック外で使用する

```
@genecode 条件式 {
  セクタ {
    プロパティ名: 値;
    プロパティ名: 値;
  }
}
```

1-2 条件式

条件式では完全一致、OR、否定を指定できます。

(1) 完全一致

条件式に「値」のみを指定した場合、端末グループの完全一致を表します。

例: 端末グループが safari のときに特定のプロパティを有効化する

```
div.foo {
  @genecode safari {
    -webkit-appearance: xxxx;
  }
}
```

(2) OR

条件式を「値 1|値 2|値 3」のように「|」区切りで指定した場合、各項目のいずれかに一致するかどうかを表します。

例: 端末グループが chrome もしくは safari のときに特定のプロパティを有効化する

```
div.foo {
  @genecode chrome|safari {
    -webkit-appearance: xxxx;
  }
}
```

(3) 否定

条件式の前頭を「!(」、末尾を「)」で囲んだ場合、否定条件を表します。否定条件は条件式の前頭に1箇所のみ記述でき、条件式全体にかかります。()内の式が1つの端末グループだけの場合は()を省略できます。

例: 端末グループが chrome でも safari でもないときに特定のプロパティを有効化する

```
div.foo {  
  @genecode !(chrome|safari) {  
    -webkit-appearance: xxxx;  
  }  
}
```

1-3 サーバーサイドの処理

@genecode ルールに記述した条件式に合致するクライアントの場合、サーバーサイドでブロック内が開されます。合致しない場合は、@genecode ブロック全体が削除されます。

例えば以下の例では、アクセスしたクライアントのグループが android の場合、div.foo{}ブロック内が -webkit-border-radius プロパティのみに変換されます。android 以外の場合は、div.foo{}ブロック内が border-radius プロパティのみに変換されます。

```
div.foo {  
  @genecode android {  
    -webkit-border-radius: 1em;  
  }  
  @genecode !android {  
    border-radius: 1em;  
  }  
}
```

なお、@genecode ブロック内では CSS 変換シートによる変換は行われません。